

## 熊本県のクルマエビ養殖

沖縄地区水産業改良普及員 糸 満 盛 健

### 1. 研修先

熊本県本渡及び大矢野

### 2. 研修者所属及び氏名

久米島漁業協同組合 上原 幸一

仲里村役場 上原 星一

恩納村漁業協同組合 山城 善輝

金城 重治

伊波 勝男

### 3. 研修年月日

昭和48年10月16日～10月23日(8日間)

### 4. 内容

#### イ はじめに

熊本県の水産業は、有明海、不知火海を中心とする内湾漁業で、漁獲物もカタクチイワシ、アジ、サバ類、アサリ、エビ類、ノリ、真珠等が中心である。沖縄県の外洋性漁業とは対象的な漁業形態である。ところで、車エビ養殖については、本県と類似する面が多くあり、そして発祥の地でもあるので、先進地研修の必要を感じていたところ、今日、その機会を得たので、以下報告します。

#### ロ 車エビ養殖の沿革

熊本県の車エビ養殖の初期段階は蓄養である。蓄養の歴史については古く、明治の中期頃から大矢野地方を中心にして、仲買人等が季節的な価格差を利用した一つの商行為として行い発達していたようである。

このように車エビ養殖が発達した背景には①天然産の車エビ多獲地で価格が安かったこと、②自然に形づくられた堤防等によって外海から隔絶された入江が多く、安い施設費で蓄養場が出来たこと、③干満の潮差が大きく、海水の交換がよかったこと、④エサとなるアサリが豊富であったこと等他府県よりも恵まれた自然的条件下にあったとのことである。

蓄養段階が昭和38年頃まで続けられてきた。以後、種苗の大量生産が確立されるに従い、価格差を利用した単なる商行為から生産を第一目的とする養殖へと移行していった。大半の養殖業者は長い蓄養経験からの移行であるために、養成技術の不馴れによる失敗等は少なかったとのこと